

<質問 4>

小規模な学校の校区にお住まいの方で、隣の校区の学校に通わせたいというのは、現行制度上可能か。

(回答)

○清野生野区長

・当区においては、学校選択制の導入についても次年度は行わないので、校区を変更したいというご希望には今、沿えない状況です。

・また、例えば学校選択制を導入したとしても、学校の受入れ人数に余裕がなければ選択できない制度となっています。

・現行では、指定外就学制度があり、基準の範囲内で、校区外の学校に通学することも可能ですが、現在はかなり厳しい基準での運用となっています。来年度には、市教育委員会で指定外就学基準を拡大することになっています。また、部活動などで学校を選択希望できるといった区により設定可能な指定外就学基準の運用が始まる区もあります。当区においても、こういった基準の適用については必ず検討していきます。

<質問 5>

もっと保護者の方のご意見を聴けるような機会が必要ではないか。

(回答)

○清野生野区長

区内全小中学校及び公私幼稚園、保育所の全保護者にチラシを配布するなどの呼びかけを行いました。フォーラムに来場いただくことは難しかったようです。

今後、例えばPTAに協力いただくとか、幼稚園、保育所の保護者会にお願いするなど、個別に集まっていたいただいている所に説明に伺うような機会を提供していきます。

<質問 6>

今日出されたご意見などを踏まえ、選択制の導入等についてどう考えているか。

(回答)

○清野生野区長

学校選択制については、導入しない方がいいというご意見を多くいただきました。

各学校へ意見交換に伺った際には、自宅から近い学校に通学したいという声が非常に多く、一番の課題であると考えており、解決できるよう検討していきます。

＜質問 7＞

校舎の耐震化対策について、今後どうしていくつもりなのか。

（回答）

○川口学校適正配置担当課長

・子どもの安全を守るのが第一であり、耐震化は非常に重要です。大阪市では平成27年度中に一定の耐震化を終えるという大きな計画があり耐震補強を実施中で27年度には完了予定です。老朽校舎の改築については、経費面も含めこういった形で対応していくのか検討中です。

○清野生野区長

・耐震補強については区役所としても全部の学校で完了させるよう要請しており、今のところ耐震補強ができない学校はないと確認しています。老朽校舎の建て替えについては、平成24年度以降、生野区内では全部ストップされており、新しい校舎を建てている場所というのは今一切ないという状況です。

＜質問 8＞

統廃合について、今から取り掛かっても10年間ぐらいは必要とのことだが、再編を見越して、再編後の新しい学校を示し、数年後から新入生を再編後の学校に入学させていくなど、10年後といわず、近い将来から時間をかけて緩やかに移行していくという提案を役所からしていただくことはできないのか。経費的な無駄も抑えられるのではないか。

（回答）

○清野生野区長

・統廃合を実行する場合でも、校舎の増改築等は必要な場合がほとんどで、最適な教育環境を提供するために、設計や工事などの設備の整備だけでも1校につき最低3年ぐらいは必要です。

・区内で抱える14校（平成25年8月現在13校）の小規模校の再編となると、予算確保の問題もあり、どんなに早くても相応の時間が必要となります。

・具体的な進め方について皆さんの御意見を踏まえながら、慎重に考えていきます。

○竹沢企画調整担当課長

・全体の方針を皆様の御意見を踏まえて決定した上で、重要な点を整理し、さらに校舎建設や増改築などの予算や関係者等との協議などに時間が必要です。

・区内の全体の教育環境の再編の完了に10年程度を要するのではないかというのは一つの目安であり、再編が始まるのが10年後というわけではありません。

○川口学校適正配置担当課長

・教育委員会事務局としましては、適正な教育環境を守るために区長と連携して取り組んでいきますが、区民の方のご意見を踏まえながら、スピード感を持って進めていきたいと思っています。

＜質問 9＞

方針決定のプロセスについて、教育委員会が最後に決定権があるということだが、統廃合や学校選択制の導入などの再編の手法について、区の裁量はどこまであるのか、市教育委員会の決定にどの区も従わないといけないのか。

市民の切実な声を聞く機会をまた設定していただけるのか。

（回答）

○清野生野区長

・適正配置審議会からの答申にある基準で取組を進めていっても、生野区の状況では課題解決が難しいと考えています。

・区長の裁量については、基本的に本市教育委員会として、24 区に対する一律の指導はあり、それに対応していく義務が区役所にはあります。

・ただ、学校選択制をどういう制度として導入するかというのは教育委員会の決定を経ないとできませんが、区長の意思がかなり尊重されることになります。

・区民の皆さんの声をお聞きすることについては、今後、学校や地域に出向くなどしていきたいと思っていますし、秋までには区として一定の方向性をお示しできるように取り組んでいきます。

○川口学校適正配置担当課長

・小学校の適正配置につきまして本市の学校適正配置審議会の答申に基づいて進めておりませんが、進捗が良くない状況ですので、区と連携して取り組んでいく中で、区長に方針を決定いただきたいと思います。

・一方で、具体的にどこにどんな学校を配置するかなどについては、市の条例で定まっており、最終的には教育委員会から市会に議案として上程し、ご審議賜るという手続となります。

＜質問 10＞

中学生の自転車通学は認められないのか。

○川口学校適正配置担当課長

今のところ自転車通学を認める予定はありません。

＜質問 11＞

小学校から中学校への進学数が半分に減っている現状をどう考えているのか？

（当日の回答）

○清野生野区長

・小学校から中学校に上がるときに、私立の中学校に行かれたりという事例がありますが、進学率はその半分というデータとしては持ち合わせてないので、お答えについては事実関係を調べた上で、答えをいたしたいと思います。

（調査結果と回答）

・平成 24 年度の小学 6 年生の児童数に対する平成 25 年度の中学 1 年生の児童数の割合を算出した結果、一部進学率が 70%強と低い例も見受けられますが、生野区全体の進学率（概算）は 87.2%

となっています。

・指定される中学校へ進学しない理由については、転居や私立中学校への進学などが考えられますが、今後も引き続き生野区の小中学校が特色と魅力ある学校となるよう、教育環境の整備につとめてまいります。

